

滋賀県版

学級経営サポートブック

(中学校編)



*この滋賀県版「学級経営サポートブック」は、平成28年度滋賀県総合教育センター研究型研修「学級経営プロジェクト研究」による研修内容、先輩教員の学級集団づくりと授業づくりにおける実践事例を基に作成しました。

目 次

滋賀県版「学級経営サポートブック（中学校編）」

～はじめに～



～第1章～ 学級経営とは？

- 1 子どもが生き生きと活動するための「みる力」 → P 5
- 2 学級経営の重要な“2つの車輪” → P 7
- 3 学級経営の充実に向けた“3つの柱” → P 9

～第2章～ 学級集団づくりと授業づくり

I 学級集団づくり

- 1 多様な考えを認め合えるファシリテーション → P 11
- 2 学級集団づくりを意識した授業実践 → P 13
- 3 ファシリテーションの活用例 → P 15

II 授業づくり

- 1 課題解決型の学習を取り入れた授業づくり → P 17
- 2 課題解決型の学習の授業実践 → P 19

～第3章～ 先輩教員の学級経営「こく発！先輩の声」

- | | | |
|---|-----------|--------|
| 1 | 学級開き | → P 21 |
| 2 | 小学校とのちがい | → P 23 |
| 3 | 学級の規律 | → P 24 |
| 4 | 学級目標 | → P 25 |
| 5 | 学級の組織 | → P 26 |
| 6 | 朝の会、帰りの会 | → P 27 |
| 7 | 学級通信、教育相談 | → P 28 |
| 8 | 学校行事 | → P 29 |

～あとがきにかえて～ → P 30

～参考文献～ → P 32

はじめに

滋賀県版「学級経営サポートブック(中学校編)」とは

滋賀県版「学級経営サポートブック(中学校編)」とは一体どのような冊子なのでしょう？

平成 28 年度、県内の小・中学校の先生方を研究委員として、「子どもが生き生きと活動する学級経営の充実」を目指して、学級経営プロジェクト研究に取り組みました。

(※研究委員の先生を以下、研究委員といいます。)



学級経営プロジェクト研究とは、どのような研究なのでしょう？



次のページをご覧ください。

本研究では、学級経営の充実に向けた柱を意識して「学級集団づくり」と「授業づくり」に焦点をあて、センターでの研修と学校での実践を繰り返し、交流や協議を行いました。

その実践や学びをまとめたのが、この滋賀県版「学級経営サポートブック(中学校編)」です。

(※滋賀県版「学級経営サポートブック(中学校編)」を以下、「サポートブック」といいます。)



そうか！学級集団づくりと授業づくりについて、研修や研究を行いながら、まとめた冊子が「サポートブック」なのですね！



どんなときに「サポートブック」を活用するとよいのでしょうか？

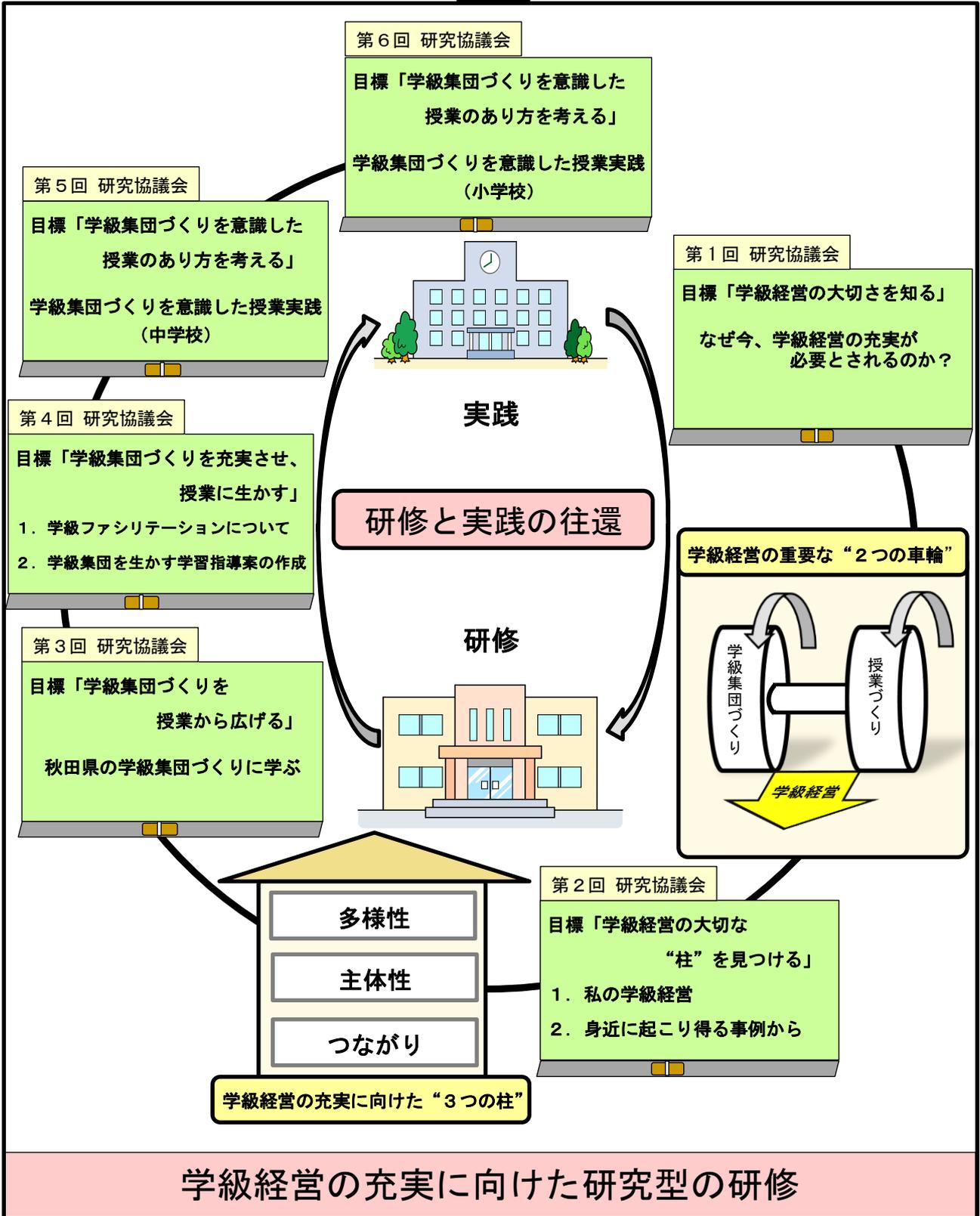
学級経営を始める前や、学級経営で行き詰まったときなどに、手にとって読んでほしいと思っています。



平成28年度(2016年度) 学級経営プロジェクト研究



子どもが生き生きと活動する学級経営の充実



学級経営の充実に向けた研究型の研修

～第1章～ 学級経営とは？

1 子どもが生き生きと活動するための「みる力」

第1章では、本研究の研究協議会の内容を中心に、学級経営を充実させるために大切な視点についてまとめました。



なぜ、学級経営が大切なのでしょう？

社会の変化が激しい今を生きる子どもたちにとって、学校は未来の社会に向けた準備段階としての場であると同時に、現実の社会との関わりの中で、毎日の生活を築き上げていく場でもあります。学校生活の中で、毎日の生活や学習活動の基盤となるのは学級です。学級をいかに円滑に経営していくかが、教員に求められる力量であるといっても過言ではありません。



私たちは、どのようなことから始め、どのような学級経営をしていけばよいのでしょうか？

まずは子ども一人ひとりをしっかり見取ることが大切だと考えます。ところで、こんな言葉を聞いたことがありますか？

「みる力」

学級経営を進めるうえでまず基本となるのは、この「みる力」ではないでしょうか？

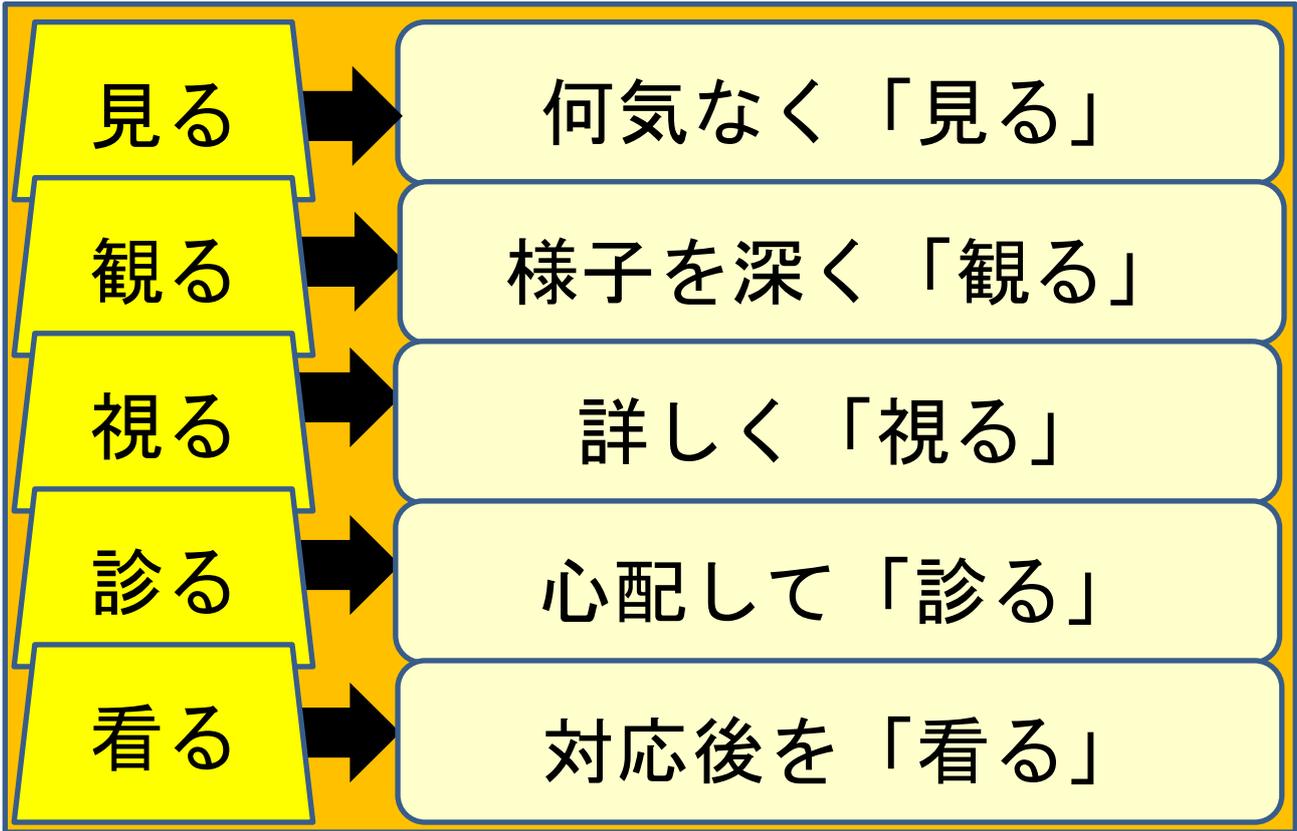


「みる力？」

そう。「みる力」です。まず、「みる」という字を一度、漢字で書いてみてください。それぞれ意味がちがいますね。

例えば次のページのように・・・





「見る」「観る」「視る」「診る」「看る」など、「みる力」は教員にとってとても大切な力です。

目に映らないものを見取る力も含めて、「みた」ものをどうとらえ、自分が子どもたちとどのように関わっていくかを考えていくうえでも大切な力です。学級経営の充実に向けて、教員と子どもたちとの人間関係を築き上げるためにも、子どもたち一人ひとりをしっかり「みる」ことから始めましょう。



学級経営の充実に向けて(生徒指導提要P 2 2 生徒指導の課題)

学習指導要領には、生徒指導に関する規定が書かれており、生徒指導の課題が示されています。例えば、小学校学習指導要領(平成20年3月)では、総則において指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項として、「日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」と定めています。中学校、高等学校の場合には、このような規定に加えて「生徒が自主(主体的に判断、行動し、積極的に自己を生かしていくことができるよう」と生徒指導充実の方向付けがなされています。

2 学級経営の重要な“2つの車輪”

サポートブックの活用にあたり、大切にしている考え方を紹介します。

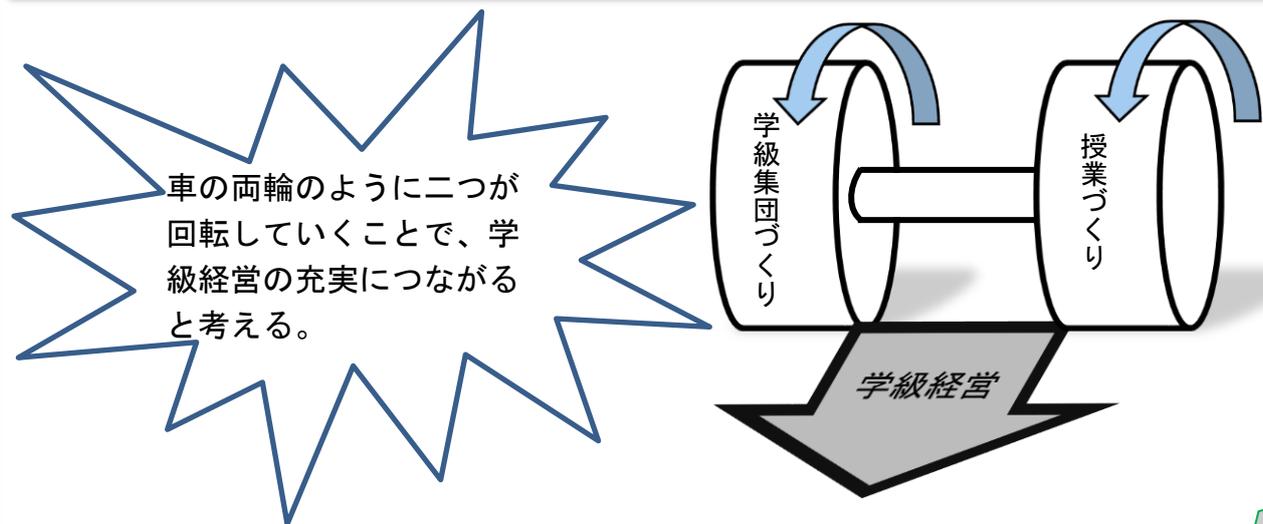


子どもが生き生きと学級で活動するために、教員である私たちはどのような学級経営を行えばよいのでしょうか？

私たちは学級経営の充実につながる第一歩として、子どもの自己有用感を育む学級集団づくりを行うこと、子ども一人ひとりの意欲・能力を最大限に引き出す授業づくりを行うことを意識して、学級経営に取り組みました。そして、この二つを学級経営の重要な“2つの車輪”ととらえました。



学級経営の重要な“2つの車輪”



自己有用感を育む学級集団づくりとは、どのように考えたらよいのでしょうか？

文部科学省国立教育政策研究所が出した『生徒指導リーフ「自尊感情」？それとも、「自己有用感」？』を見てみましょう。



「自己有用感」とは？(参照 生徒指導リーフ「自尊感情」？それとも、「自己有用感」？)

「自己有用感」とは、人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という自分と他者との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自分に対する肯定的な評価のことです。



自尊感情という言葉もよく聞きますが、自己有用感とは違うのでしょうか？

本県においては自尊感情を、「長所も短所もひっくるめて自分自身をかけがいのない存在と感ずること」と捉えています。また、「相対的な自尊感情」と「絶対的な自尊感情」を次のように定義付けています。



自尊感情の捉え（「本県における人権教育の推進について」から引用）

「相対的な自尊感情」

「認められたり、ほめられたり、優れていると実感できたり、価値があると思えたりするもので、他者との比較で自分の優れている点が焦点化されていく感情」

「絶対的な自尊感情」

「あるがままの自分を受け入れ、自分をかけがいのない存在として丸ごと認める感情で、他者との比較や成功、優越とは無関係なもの」



他者との比較や成功、優越による「相対的な自尊感情」に目を向けがちだが、子どもたちがたくましく生きるには「絶対的な自尊感情」を育む必要がある。

本県における自尊感情の捉えは、「絶対的な自尊感情」を意味しています。この「絶対的な自尊感情」を大切にすることで、自己有用感を育む学級集団づくりにつながっていくと考えています。



では、なぜ授業づくりが学級経営の充実につながるのでしょうか？

学校生活の大半は授業です。子どもの自己有用感を育み、一人ひとりの意欲と能力を引き出す授業づくりをしていくことで、よりよい学級集団となり、学級経営の充実につながると考えています。



教科における生徒指導の意義（生徒指導提要 P23）

児童・生徒にとって、学校生活の中心は授業です。児童・生徒一人ひとりに楽しくわかる授業を実感させることは教員に課せられた重要な責務です。

3 学級経営の充実に向けた“3つの柱”

子どもが生き生きと活動する学級経営の充実のために、学級集団づくりと授業づくりを“2つの車輪”としましたが、この“2つの車輪”を上手く回すために大切にしてきたものがあります。それが“3つの柱”です。



「学級集団づくり」と「授業づくり」の“2つの車輪”を上手く回すためにはどうすればよいのでしょうか？

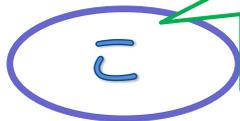
「子どもが生き生きと活動する学級経営の充実」を目指して学級経営に取り組んできましたが、大切にしてきた柱があります。その柱とは、子どもたちが「**多様性**」を認め合う人間関係を育むこと、子どもの「**主体性**」を引き出すこと、クラス(学級)のみんなが「**つながり**」、協力しようとする姿を育むこと。これらを学級経営の充実に向けた“3つの柱”としました。



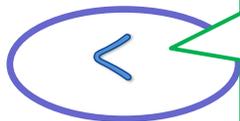
学級経営の充実に向けた“3つの柱”



^こ子どもたちが「**多様性**」を認め合う人間関係を育む



^こ子どもの「**主体性**」を引き出す



^くクラス(学級)のみんなが「**つながり**」、
協力しようとする姿を育む

この ^こ^こ^く を意識して、学級集団づくり、授業づくりを行ってみませんか？





“3つの柱”が大切なことは分かったけれど、学級集団づくりと授業づくりを進めていくうえで、具体的に、どのような子どもの姿をイメージして取り組んでいけばよいのでしょうか？

下の図を見てください。“3つの柱”を基に、重要な視点をまとめてみました。



“3つの柱”を基にまとめた重要な視点

3つの柱	重要な視点
多様性	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの考えや発言をみんなが認めている …①
	<input type="checkbox"/> 問いに対して、自分の考えを安心して出すことができる …②
	<input type="checkbox"/> 自分にはない考えに耳を傾け、認めることができる …③
主体性	<input type="checkbox"/> 自ら知りたい、見つけたい、学びたいと感じている …①
	<input type="checkbox"/> 自らが課題意識をもち、学習を進めている …②
	<input type="checkbox"/> 自らの力で粘り強く考えたり、調べたりしている …③
	<input type="checkbox"/> 挑戦しようという気持ちになることができる …④
つながり	<input type="checkbox"/> 自分の考えを先生や友達に話している …①
	<input type="checkbox"/> 友達の考えを自分のこととして聞いている …②
	<input type="checkbox"/> 友達の考えと比べながら、自分の考えを話している …③
	<input type="checkbox"/> みんなと協力して課題を解決しようとしている …④
	<input type="checkbox"/> 安心して学べる温かい雰囲気がある …⑤



このような視点を意識して、学級集団づくりや授業づくりに取り組んでいけばよいですね。具体的な子どもの姿が示されていると、イメージしやすいのですが、これらの視点すべてを取り入れていかなければいけないのでしょうか？

すべての場面において、すべての視点を取り入れることはなかなかできませんね。

この後の第2章では、これらの柱と重要な視点を意識した学級集団づくりと授業づくりの実践事例について紹介していきます。



～第2章～ 学級集団づくりと授業づくり

I 学級集団づくり

1 多様な考えを認め合えるファシリテーション

子どもが多様性を認め合い、合意形成を図るために必要なスキルとなるファシリテーションについて学びましょう。



「ファシリテーション」という言葉を最近よく聞きますが、どのような意味なのでしょうか？

ファシリテーション (facilitation) とは、人々の活動が容易にできるように支援し、上手くことが運ぶよう舵取りをすることです。集団による問題解決、アイデア創造、教育、学習など、あらゆる知識創造活動を支援し、促進していく働きを意味します。その役割を担う人がファシリテーター (facilitator) であり、会議で言えば進行役にあたります。



なるほど。教員がファシリテーターとなり、子どもたちが生き生きと活動できるように支援していけばよいですね。

下図に示すように、ファシリテーションにおいて、大切にしているスキルは四つです。このスキルは、学級経営に取り組んでいくうえで必要なスキルだと考えます。まずは、安心・安全な場をつくり、子ども同士が対話できる雰囲気をつくることから始めましょう。



ファシリテーションにおいて大切な四つのスキル

1	場のデザインのスキル	～場をつくり、つなげる～
2	対人関係のスキル	～受け止め、引き出す～
3	構造化のスキル	～かみ合わせ、整理する～
4	合意形成のスキル	～まとめて、分かち合う～



対話とは？

目的を共有して、お互いの意見の違いを理解しながら合意形成を図る話し合いのことです。



2 学級集団づくりを意識した授業実践

ファシリテーションを活用したA小学校での学級活動の授業実践を紹介します。



小学校の授業実践ですか？

確かに本書は中学校編として作成しています。しかし、学級集団づくりをするうえで、小学校の学級活動は中学校の先生にとって参考になる内容だと思います。



研修会後の中学校勤務の研究委員による感想

- ・子どもたちが安心感をもって、いろいろな子どもとつながり、学習しているのが印象的でした。小学校で培われている大切な面を中学校でも継続していければと思います。
- ・学級の雰囲気づくりが温かくて、安心感のある学級活動が授業につながっているのだと思いました。この安心感を中学校でも大切にしたいと思いました。ファシリテーターとしてのスキルを大切にしたい雰囲気づくりをこれからの学級経営に生かしていきたいと感じました。
- ・中学校に入ると思春期にもなり、口数も少なくなってくるので、学級集団として合意形成を図らなければならない場面で悩むことがあります。場づくり、雰囲気づくりを大切にしたいファシリテーターとなることで上手くいくこともあるだろうと今日の授業から学びました。振り返りをみんなで行うことで、多様な集団をまとめることにつながるのだと感じました。

次のページに、教員がファシリテーターとなった学級活動の学習指導案を載せました。授業では、子どもたちがミッションを達成するために、対話しながら協力する姿が見られました。

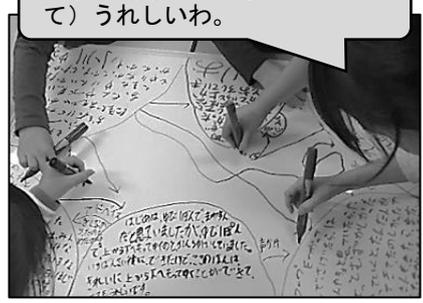


学級集団づくりの授業では、指導上の留意点の中に3つの柱と重要な視点を盛り込んで、実践しました。10ページの内容と照らし合わせて見てください。

小学校 第3学年 学級活動 学習指導案
 題材名「友達を大切に」
 目指す学級集団の姿

本研究における“3つの柱”
 「多様性」「主体性」「つながり」を意識した学習指導案

- ・友達からの評価によって「自分自身の持ち味やよいところ」を知り、自己有用感を高める
- ・子ども同士が、互いに対話をしながら協力する活動を通して、友達のよさを発見し、今後もよりよい学級集団をつくらうとする態度を育てる

授業の流れ	学 習 活 動	指導上の留意点 (学級集団を生かすための手立てと大切にす視点)
導入 5分	1. 友達から言われるとうれしい言葉を考え、意見を出し合う。	・思いつくままに書き込むことができるよう、ホワイトボードと付箋を準備しておく。(KJ法)
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ミッション1に取り組む</div> 2. 「ぼかぼかカード」に友達のよいところを書く。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ・最低限のルールのみを示す ・書いてもらう数が少ない子どもが出ないよう、「あまり書かれていない人がいたら書いてあげてね」と声かけを行う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ミッション2に取り組む</div> 3. 「ヘリウムリングに挑戦」する。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>みんなで声をかけながらやってみよう。</p> <p>よし、そうしよう。</p> </div>	・「〇〇さんのよいところ」と書かれた「ぼかぼかカード」を配付する。カードは、クリップボードにはさみ、各自が背負う。また、ルールを子どもと確認する。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・教室内を黙って自由に歩き、自分が書いたと気付かれないように「友達のよさ」を書き込むようにする。 「多様性」① </div> ・何も書いてもらえない子どもが出ないように、全体を見渡しながらかけを行う。 ・背負ったクリップボードを外し、書かれた内容を確認し、感じたことを学級全体で共有し合う。 ・この活動を通して、思ったことを出し合い、共感できる雰囲気を大切にすることで、学級に所属する安心感を育み、自己有用感を高める。 「つながり」① ・5人(4人)のグループをつくる。 ・説明の際、子どもたちが「簡単そう」「すぐにできそう」という気分になったところで、挑戦を促す。 「主体性」①、④ ・作戦会議を行うようにする。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ファシリテーターとして、「上手くいくためにはどうすればよいのか」という視点を大切に作戦会議となるよう努める。 「つながり」④「多様性」③ </div> ・作戦会議後、もう一度挑戦し、スムーズにミッションに取り組めるようになったことを評価する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 活発な作戦会議となるよう促す。 </div>
まとめ 10分	4. 「ヘリウムリングに挑戦」を振り返る。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> (私にも矢印が向けられていて)うれしいわ。 </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>	・グループごとにホワイトボードを用意し、自分への振り返りを記入した後、意見を交流する。 ・誰の言動がよかったかななどを記入し、その人に向かって矢印を伸ばすことで、他者理解につなげる。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 振り返りを1枚のボードで行うことで自分のよさに気づき、友達のよさを発見するよう促す。 「多様性」① </div> ・リーダー以外の子にも矢印が向いていることから、周りの支え合いで成立していることに気付くようにする。 ・最後に、活動を通して気付いたことや、感じたことをグループで話し合う。

振り返りをみんなで行うことで自分のよさに気づき、さらに友達のよさを改めて発見することで、よりよい学級集団づくりにつながります。



3 ファシリテーションの活用例

気持ちを一つにする手法の一つ

ファシリテーションの活用例として、「ヘリウムリング」の演習に挑戦してみましょう。「ヘリウムリング」とは、右の写真のようなプラスチックでできたリングを使います。このリングを人差し指のみで支えながら地面に下ろすことができるのでしょうか？



ヘリウムリングの体験

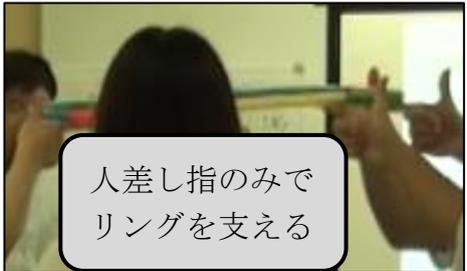
準備物 リング、模造紙、水性マジック 6色

ルール

6人一組となり、人差し指にリングを乗せたまま地面に下ろす。誰の指もリングから離れてはいけません。

主な流れ

- (1) 6人一組のグループになる。
- (2) グループにリングを渡す。
- (3) リングを人差し指に乗せたまま、地面に下ろすことに挑戦する。



人差し指のみでリングを支える

あれっ！上手くいかないぞ！
リングが上がってしまう・・・



- (4) 上手くいくための作戦会議をする。
上手くできたグループは、半分の時間で下ろすための作戦会議をする。

「上手くいくためにはみんながどうすればよいのかな？」



- (5) 作戦会議後もう一度挑戦する。

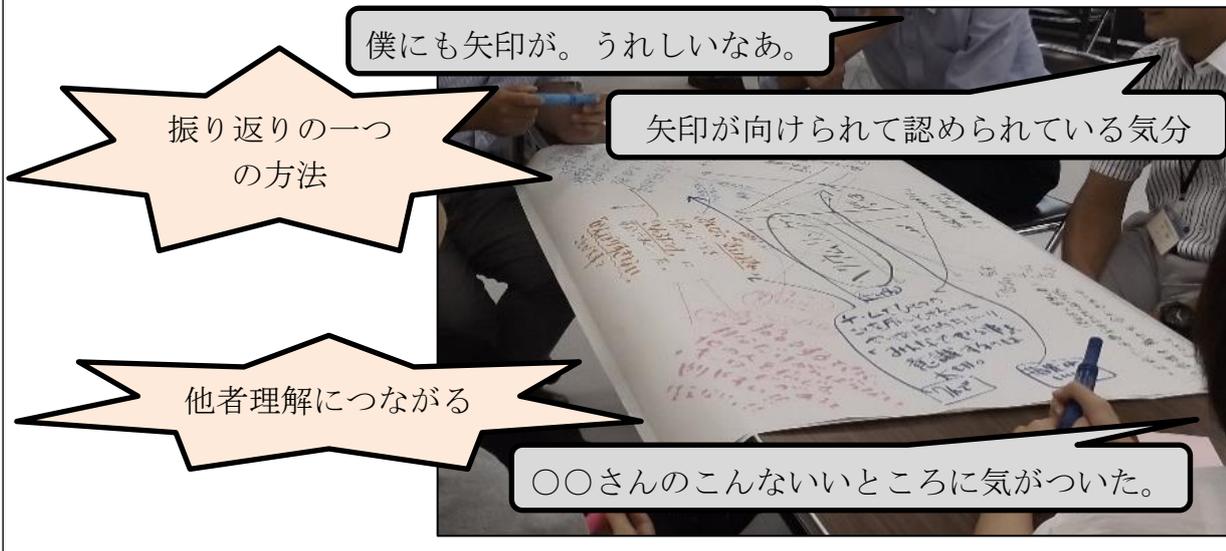
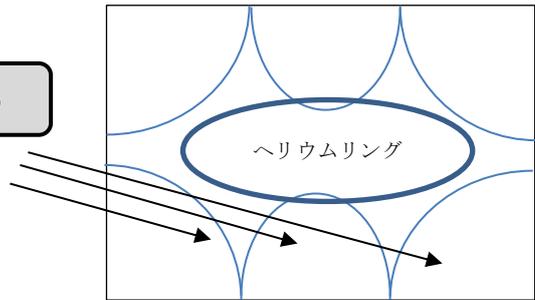
息を合わせて！地面までもう少し！
できた！大成功！
さっきよりかなり早くなったよ。

- (6) 振り返りを行う。

振り返りの方法

自分の振り返りと他者理解を1枚の模造紙で行う

- (1) 6人で行った場合、模造紙を右の矢印のように6分割し、「ヘリウムリングは私たちにどのような気付きを与えたか」を書き込む。
(自分への振り返り)
- (2) 書き込んだことをグループ内で共有し合う。
(グループで)
- (3) 誰の言動がよかったのかを、模造紙に具体的に追加記入する。
例 ○○さんのかけ声はよかったなど
- (4) 記入ができたなら、その人へ向かって模造紙上で矢印をのぼす。(他者理解)
- (5) 矢印が自身に向けて伸ばされた時に、感じたことを話し合う。



参加者の振り返りや気付き、感想

- ・遠慮しないで意見を出し合うことがとても大切だと思いました。意見が多く出る雰囲気があったからこそ、意見をお互いに擦り合わせ、よい方法で合意形成でき、成功につながったのだと思います。
- ・上手くいくために多様な意見が出たが、それは子どもたちの中にみんなで成功させたいという思いがあったからだと思います。メンバーのみんながミッションを成功させることを考え、誰の意見も否定されることなく自然な感じで合意形成が図られていました。
- ・リーダーとなって声を出す人と、そのリーダーの声に合わせてミッションを成功させようとするので、メンバーのそれぞれのよさが再確認できました。
- ・声を出すリーダーなくしてこのミッションは成功しない。リーダーを支えるフォロワーなくしてこのミッションは成功しない。それぞれの役割を果たすことがとても大切だと実感しました。

振り返りが大切ですね！



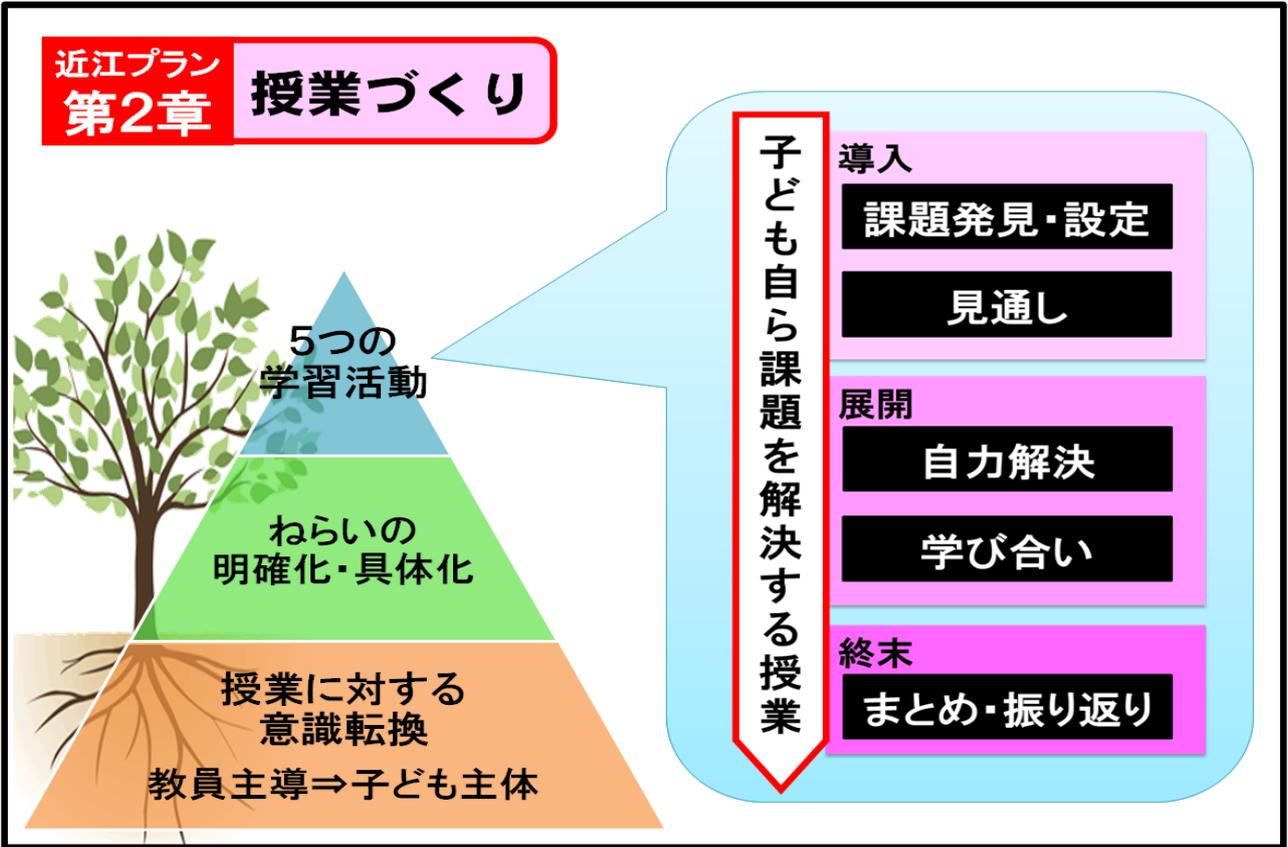
Ⅱ 授業づくり

1 課題解決型の学習を取り入れた授業づくり



課題解決型の学習を取り入れた授業とは、どのような授業でしょうか？

課題解決型の学習を取り入れた授業とは、ねらい（課題）の達成に向けて子どもたちが自ら課題を解決していこうとする授業です。当センターの研究成果物である「授業改善近江プラン」に示されている授業づくりの構造が下の図です。



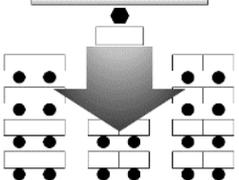
どういったところが学級経営の充実につながるのでしょうか？

つながる場面はたくさんあります。そのいくつかを右のページに示しています。



学級経営の充実につながる課題解決型の学習

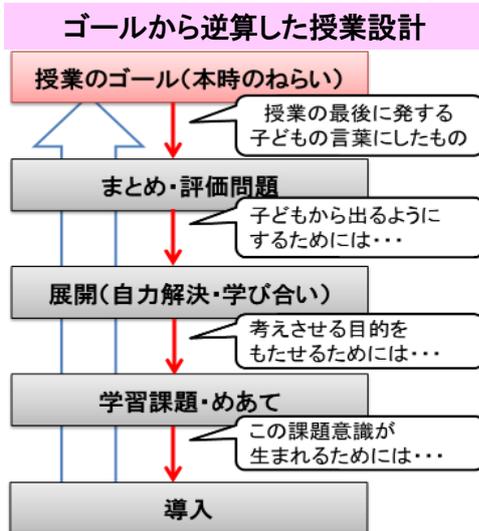
① 授業に対する意識転換

教え込み型	子ども主体型
	
一方通行 知識伝達「教員→子ども」	多様な考えを生かす 教員の支援(コーディネート) 一問多答 互いの考えが絡み、深め合う

ファシリテーションの効果的な活用は、子ども主体の授業につながります。



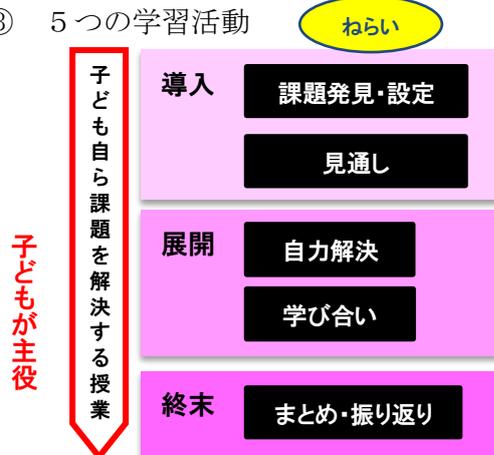
② 子どもの思考の流れに沿った授業設計



子ども自らが課題を解決する姿こそ、子どもが主役の学びです。日頃から、子どもの思考の流れを大切にしたい授業を目指したいですね。



③ 5つの学習活動



「多様性」「主体性」「つながり」を授業者が常に意識することで、子どもの学びが広がり、深まります。



あたたかい学級集団をつくることこそが授業づくりに生かされていくのですね。

2 課題解決型の学習の授業実践

下の学習指導案は、課題解決型の学習を取り入れたB中学校の社会科の授業です。この授業でも、指導上の留意点に3つの柱の重要な視点(10ページ)を盛り込んでいます。「目指す学級集団の姿」を常に意識して授業を行うことが重要です。



中学校 第2学年 社会科 学習指導案 単元名 近畿地方
本時のねらい

- ・歴史的な景観の保全と都市開発について、意見を出し合い学び合うことで、自分の考えをもつことができる。
- 目指す学級集団の姿

- ・生徒一人ひとりが、主体的に教師やクラスメイトと対話をしていくことで、多様な意見や見方にふれて、自分の考えが深まる集団をつくる。

本研究における“3つの柱”
「多様性」「主体性」「つながり」を意識した学習指導案

授業の流れ	学習活動	指導上の留意点 (学級集団を生かすための手立てと大切にする視点)
導入 5分	1. 身近にある自動販売機と、京都にある自動販売機を比べ、違いを見つける。  (身近にある自動販売機) (外側を木で覆った自動販売機)	・身近にある自動販売機と、京都にある自動販売機を比べることを通して、本時の学習内容に興味をもたせ、学習課題へとつなげる。 「主体性」①
	2. 学習課題を確認する。京都の街並みには、どんな特徴があるのだろうか。 	・「なぜ」を引き出し、子どもが主体的に学ぼうとする学習課題を設定する。 ・自分の考えは・・・
展開 40分	3. 京都や奈良の建物の特徴や歴史について、資料を基に調べ、意見を出し合う。 ・古都と呼ばれる。 ・文化財が多い。 ・電柱がない。 ・都市開発が進み、ビルが建ち並ぶ。 4. 京都や奈良の歴史と街並みについて考えたことを、友達と意見交流し合う。  私はこう思うけれど、あなたは？ よい考えだと思うわ。私はこう考えたわ、聞いてくれる？	・京都・奈良のもつ二面性（歴史的な側面と現代的な側面）に目が向くように、歴史的な街並み（清水寺に近い三年坂）の写真と、現代的な京都駅前の写真を示す。 ・グループで意見を交流するときには、一人ひとりの考えをしっかりと聞くことを大切にし、意見は箇条書きで、ホワイトボードに書くよう助言する。 「つながり」①、②「多様性」② ・歴史的な景観の保全の大切さと、都市開発のメリットの、どちらにも気付くことができるように、立場を決めて話し合う場を設定する。 ・全体的話し合いでは、生徒の疑問や質問を取り上げながら、発言をつないでいくようにする。 「つながり」④ ・多様な意見や見方にふれて、生徒が自分の考えを構築できるようにする。 「多様性」③
まとめ 5分	5. 本時の学習のまとめをする。  今日の学習のポイントはどこかな？ 歴史的な景観を守りながら都市開発も進められているところです。 6. 本時の学習を振り返る。	・生徒の発言から、まとめとなるキーワードを引き出す。 ・本時の学びを振り返り、次時への学習意欲がもてるよう、振り返りの視点を示す。



学習指導案をたてるときには、「目指す学級集団の姿」を常に意識しておくのと、子ども主体の授業になり、学級集団づくりにつながります。

授業後の生徒の振り返り

- 人の意見を聞いてなるほどと考えさせられる場面があった。
- 自分の意見を友達に聞いてもらえて楽しい授業だった。
- 自動販売機の写真を見たときに、「なぜだろう。早く調べたい！」とわくわく感があった。最後は、歴史的な景観がこのような努力で守られているのだと思った。

導入で主体性を高め、対話による学び合いから多様な意見を認め合い、そのことが教師の目指す学級集団の姿へと結びついていきますね。子どもの振り返りからもそれが伝わってきます。



やはり、授業づくりを深めていくことは、学級経営の充実につながるのですね。

参加者の振り返りや気づき、感想

- 導入をコンパクトにまとめたことで、後の子ども同士の対話に時間をかけることができ、その結果、深まりのある学習につながったと思います。学習課題を子どもから引き出したことも主体的な学びとなり、素晴らしかったです。(中学校教員)
- 緊張感の中にも温かい雰囲気があったのは、学級の子どもと授業者との関係が上手くいっているからだと感じました。「多様性」、「主体性」、「つながり」を意識した授業実践で、「これらのバランスを意識しながら授業を組み立てた。」という意見が印象的でした。(中学校教員)
- 落ち着いた態度で、一人ひとりがその静けさの中で自分の考えを整理し、また対話によってつながっている感じがして、小学校教員としてもとてもよい学びになりました。(小学校教員)
- 中学校の授業を参観して、よい授業の裏にはよい学級集団づくりが必要不可欠であると改めて感じました。(小学校教員)
- 「つながり」が安心感を生み、「主体性」を引き出す教師の工夫が「多様性」を認め合えることにつながるのだと感じました。(小学校教員)

～第3章～ 先輩教員の学級経営「こく発！先輩の声」

1 学級開き



準備することはたくさんありますが、心の準備は大丈夫ですか。落ち着いて学級開きができるように準備していきましょう！

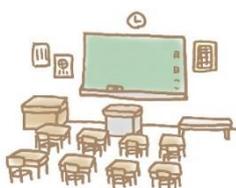


4月、学級開きまでにどんな準備をしておけばよいのでしょうか？

年度初めの4月は、職員会議や学年会議、新学期の諸準備等でも忙しいですね。



学級開きまでにすべきことの例を挙げておいたので、参考にしてくださいね。



先輩の先生に相談しながら準備していきましょう。緊張するけれど、ワクワクした気持ちを大切にしましょう！

《学級開きまでの TO DO リスト》（順不同）

- 書類に学級、出席番号などを記入（指導要録、出席簿、保健関係書類等）
- 名前の読み方をチェック（名前は覚えましょう）
- 前年度の子どもの引き継ぎ（前担任や学年の先生から情報収集）
- 健康確認（食べ物アレルギー、持病のチェック）
- 教室の掃除
- 机と椅子の確認（破損やぐらつきなどを点検し、必要であれば修理）
- 学校経営管理計画、生徒指導方針、学年指導方針の確認
- 靴箱、ロッカー、傘立てなどの位置を決め、名前シール貼り
(破損やぐらつきなどを点検し、必要であれば修理)
- 学級通信作成
- 学級開きの日に子どもたちの前で行ったり、話したりする内容の整理



先輩教員はどんなふうに学級開きをしているのでしょうか？次のページの「こく発！先輩の声」を参考にしてみよう。

ここく発！先輩の声1 私の学級開き

- 子どもは、環境も変わり、これから始まる一年間がどのようなのか不安な気持ちとなっています。学級開きの日は、笑顔で教室に入るようにしています。初日はあっという間に過ぎてしまうので、一人ひとりの名前を確認（名前の読み方は事前にチェック）し、明日以降の予定を伝え、あまり多く入れて盛りだくさんにならないように注意しています。（中学校教員）
- 自己紹介をするとき、なぜ自分が教師になったか、どういう学級にしていきたいか、どういう「人」になってほしいか、自分が大切にしていることを「じっくり語る」ことを意識しています。子どもは、初めは警戒心もあり、緊張しているものです。「褒める、叱る」の線引きはどこなのかもはっきり示しておくべきです。私は、「中学校は大人になるための準備期間であり、社会で生きていくために必要なことを学ぶ場所だ」と伝えたくて、「夢をもてる人、仲間を大切にできる人、責任感のある人、辛くてもあきらめない強い心をもつ人、何事にも感謝できる人」であってほしいと伝えています。（中学校教員）
- どの子どもも大切にするという姿勢を見せるために、事前に子どもの名前を覚え、さらに全員の机の中に、手紙を忍ばせています。また、あえて座席表は作りません。その理由は、登校した子から席を探し始め、互いに教え合いながら席につくことができると考えるからです。子ども同士で協力することを通して、一体感を育むねらいもあります。（小学校教員）
- 子どもたちは、新しいクラスに期待と不安をもっています。また、担任の先生の様子をうかがっています。そこで、初めての子どものとの出会いの場でもある学級開きでは、まず子どもが「なんかこの先生楽しそう！」と思えることが大切です。キーワードは「予想外」です。子どもが予想もしないことを少し言ってみたり、やってみたりすることで、子どもは先生に興味津々になります。（小学校教員）



2 小学校とのちがい



少しずつ成長していく姿を見守りましょう！



中学校に入学してすぐの時期に気を付けておいた方がよいことはありますか？

「小学校とどんなところが違うのかな？」などと問いかけていくことで、子どもの不安を取り除き、中学校生活に慣れていけよう丁寧に話していきましょう。



こく発！先輩の声2 授業の違いについて

○長休みがなく、教室移動も多いです。子どもたちは入学当初、「休み時間は遊ぶ時間」という感覚があり、授業の準備が遅れてしまいがちです。また、各教科担当からの連絡も多く、各自がしっかりと話を聞くように、はじめにきちんと指導しておく必要があります。いつまでも担任に頼って、他の教科のことも質問してくる子もいますが、自立できるようにしていきたいですね。（中学校教員）

○教科担任制となるので、私はまず「授業の内容が小学校よりも専門的になり、教科の専門教員が授業をします。遠慮せず、どんどん教科担当の先生に質問すれば、わかりやすく、丁寧に説明してもらえます。学習が苦手だった人もどんどん質問してくださいね。」と伝え、子どもの不安を取り除き、安心できるように努めています。また、何人もの先生が子どもたちを見てくれることから、悩み事なども話しやすい先生に相談できたり、いろんな先生からおもしろい話やエピソードなども聞けたりして楽しいですよ、とメリットを伝えています。（中学校教員）

小学校の時間割						中学校の時間割					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1						1					
2						2					
長休み						3					
3						4					
4						昼休み					
昼休み						5					
5						6					
6						部活動など					

3 学級の規律



子どもとともにすることが大切です。そのルールは子どもにとって本当に必要ですか？！



子どもたちに学級のルールを確認したいが、一方的に示してよいもののでしょうか？

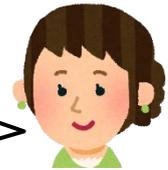
教師が一方的に示すだけではなく、子どもにとっても「このルールは一年間を一緒に過ごすうえで必要なルール」という意識をもたせたいですね。



そのためには、教員は前もって大まかな案をもったうえで、「なぜこのルールが必要なのか」を子どもたちに考えさせることが大切です。



子どもたちが自分たちで考えることによって、「やっぱりこのルールは必要」という意識が芽生え、お互いに守ろうと声を掛け合うことにつながっていくとよいですね。



こく発！先輩の声3 学級の規律について

○私は学級で大切にしたいルールを子どもたちに投げかけますが、それを示す際に、なぜこのルールが必要なのか、子どもたちと一緒に考え、納得できるように説明することを心がけています。例えば、「教室はきれいに使いましょう。この教室は先生とみんなで使うものです。1人が教室を散らかすとどうなりますか。みんなが迷惑します。自分1人のものではないことを意識してほしいです。」と話しています。何の理由付けもなく示すより、生徒たちはよく聞いてくれます。(中学校教員)

○学級として守りたい(守らせたい)ルールはたくさんあるし、全てを一度に完璧に…というのはなかなか困難です。しかし、私が担任として譲れない基準は、誰かが傷ついていないか、立場の弱い子に居場所があるか、頑張っている子が「頑張ってたよかった」と思えるか、ということです。これが守られていないときは厳しく指導することを、学級開きの際にしっかりと宣言し、いつもこの三つを意識してルールづくりをしています。(中学校教員)

4 学級目標



子どもの思いを引き出すことが大切です！



学級目標を考える際に気をつけることって何でしょうか？

私が大切にしているのは、目指す学級の姿、1年後の学級がどのようになっているかというゴールイメージを話し、そこに、子どもたちの思いや願い、期待を込めるように心がけています。



こく発！先輩の声4 学級目標づくり

- 学級の目標は、1年間の学級経営の「核」となるとても大切なものです。1年後にどんなクラスで終わりたいかを子どもたちと考え、担任の思いもミックスしながら、みんなで考えることが大切です。「パツ」と見て、分かりやすく、覚えやすい目標にしています。(小学校教員)
- フレーズだけにこだわって、派手な学級目標を掲示した若い頃の自分を思い出して恥ずかしくなります。子どもたちと一緒に作りはしましたが、貼っただけで終わってしまった苦い経験があります。今は、「どんな学級にしたいのか」「1年後、自分たちの学級がどのようになっているか」を、自分の思いを語りながら、子どもたちの意見も聞き、学級目標を決めています。学級目標には、子どもたちの思いも詰まっているので、折に触れ、学級目標どおりの学級集団となっているのかを考えさせたり、話し合わせたりしています。(中学校教員)
- 学級目標は、年間を通して、何かが起こればみんなでそこに立ち返り、考え直せる合言葉。クラスみんなの思いが詰まっていないと意味がありません。クラスみんなが「どんな学級でありたいのか」「ゴールはどんな雰囲気なのか」をイメージし、まとめていきます。合言葉自体は、みんなの思いが詰まっていて、ポジティブなイメージのものなら何でもよいと思います。要は「みんなが参加して納得して決めたもの」であることが大切です。掲示物も5月くらいには完成させたいものです。問題が起こった時には、この目標を作った思いを再度確認すれば、子どもたちの手で解決に向かえるかもしれません。(中学校教員)



ある中学校の学級目標。
仲間を大事にし、笑顔あふれる学級にしたいという子どもの思いと担任の願いとが、紙面いっぱいにあふれています。

5 学級の組織



子ども一人ひとりが存在価値を感じられる組織づくりを！



学級全体が生き生きと活動できる集団となるようにするために、学級の組織づくりをしたいけれど、どのようなことに気をつければよいのでしょうか？

学級の組織は、子ども同士の「つながり」でもあります。この「つながり」が強まれば、学級に起こる問題の解決にも主体的に取り組んでいけるのではないのでしょうか。私たちが組織づくりで意識していることを紹介します。



こく発！先輩の声5 生き生きと活動できる学級の組織づくり

- 私の勤務する学校では、年度当初の会議において班活動など学級組織の大枠が示され、その大枠にしたがって決めていきます。子どもたちには、「自分の役割を果たすことは、周りの人からの信頼が得られるだけでなく、自分自身の学校生活もスムーズにしている。」ということをお話しています。毎日の帰りの会では、今日の班活動はどうだったのかを振り返り、上手いかなかったときには「上手いするにはどうすればよいのか。」を子どもたちに考えさせたり、話し合わせたりしています。(中学校教員)
- 学級での仕事は、ややもすると一部の子どもばかりに押し付けられる可能性があると思います。私は必ず「学級でみんなが生活していくのだから、一人ひとりが仕事をするのは当たり前で、一部の人がばかりがしているのはおかしい。」ということをお話しています。たとえ、一つの仕事するのに時間がかかっても、仕事をやり遂げられるまでじっくりと待つことにしています。学級で過ごす一員として、その責任を果たすのは当たり前だということを常日頃から言っています。(中学校教員)
- 学級が生き生きと活動できる集団となるためには、一人ひとりがしっかりと責任を果たすことが大切だと考えています。そのために一人一役を与え、それぞれが自分の役割を意識するように声かけをしています。また、各班で工夫した班ポスターを作らせてコンテストをしたり（自然と班ポスターをよく見るようになるので、自分の役割を意識できる）、「完璧に仕事した班にはご褒美があります！」とか楽しみをつけてあげたりすると、子どもたちはやる気満々で頑張ります。(中学校教員)

6 朝の会、帰りの会



笑顔で教室に入りましょう！



朝の会や帰りの会はどのような意識で進めたらよいのかな？
できれば子どもに任せられるところは任せたいとも思うのですが・・・

一日の始まりである朝の会は、子どもの心と身体の健康をしっかり把握するため、表情などをよくみる(観察する)とともに、一人ひとりが目標を持ち、学習や生活に向かおうとする気持ちや姿勢になれるような声かけなどを心がけています。



一日の終わりである帰りの会では、子どもの表情をよく観察するとともに、一人ひとりが一日の生活を振り返り、また学級としても一日の集団活動を振り返り、明日も元気に来られるように声かけをするとともに、翌日の生活への目標をもつ場となるよう意識しています。



ここく発！先輩の声6 朝の会、帰りの会の持ち方

○朝の会の司会は、日直の役割としています。最初は緊張のあまり、みんなの前で話すことに抵抗を感じる子どももいますが、継続することで習慣化につながります。日直は、教室のカギを開けるため少し早めに登校するので、子どもから伝えた方がよいと感じた連絡事項については、先に日直から伝えてもらうようにしています。また「人前で話す」「人の話を聞く」経験をすることで、授業でも、自分の考えをはっきりとすることができる子ども・学級集団になってほしいと願っています。(中学校教員)

○朝の会と帰りの会は、一日の中で20分ぐらいの短い時間ですが、年間で考えるとかなりの時間を使う大切な学級活動の時間と考えています。朝の会に行う健康観察は、一人ひとりの子どもの様子を把握するチャンスと考え、目を合わせて丁寧に名前を呼ぶように心掛けています。その時に少し気になった子どもには、どこかで声をかけるようにしています。帰りの会では、自分のめあてを振り返る時間として、振り返りカードに記入する時間を設けています。前日の子どもたちの振り返りから全員で共有したい内容については、朝の会に紹介することで、一日一日をつなげることも意識しています。(小学校教員)



楽しい気分で家に帰っていけるように、その日の子どもたちのよいことをいっぱい話すようにしています。明日の学校生活につながる帰りの会にしたいですね。

7 学級通信、教育相談



独りよがりや自己満足にならないように気を付けましょう！

こく発！先輩の声7(1) 学級通信でつながろう

- 学級通信を書くときの私のこだわりは、二つあります。①手書きで書くこと。どこでも書くことができるし、手書きというだけであたたかみが増し、子どもたちは興味を示してくれます。写真も好きな形に切り取れるし、子どもたちのイラストも気軽に載せられ、レイアウトも自由自在です。②「できるだけ」毎日書くこと。何気ない学級の様子も、大切な思い出の一つです。でも、無理をし過ぎないように、「できるだけ」を心がけています。自分が楽しんで通信を出すことが一番です。(中学校教員)
- 学級通信は、先生の思いを文字化して子どもや保護者にしっかり伝える最強のツールだと思います。そこで、連絡事項は簡潔にまとめ、今、学級で取り組んでいることや子どもたちの頑張り、逆に子どもたちの課題などを子ども向けに書いて、毎回読み聞かせています。また、子どもたちの誕生日の日には誕生日通信として、その子が写った写真や誕生日の雑学、先生からのメッセージ、保護者と連絡を取って、幼いときのエピソードなどを載せています。通信づくりを通して、子どもとも保護者ともよい関係が築けることも多いです。(小学校教員)
- 「思春期で、子どももほとんど学校のことを話さなくなったけど、学級通信を見たらよくわかります。毎回楽しみに読ませてもらっています。」ある、保護者の言葉です。学級通信は「お知らせ」ではなく「学級の姿を映し出す鏡」です。学級の姿をどのように見て、どのように書くかは担任次第です。ここで担任の考え方・生き方・こだわりが出ます。毎日の子どもの姿から自分の思いを語る。時には、子どもや保護者の言葉を使い、時には自分の生活を綴り、自分にしか書けない通信づくりをめざしています。(中学校教員)

こく発！先輩の声7(2) 教育相談



子どもの思い、親の思いを大切に！

- 「教育相談」＝「今日行く相談」と、先輩の先生から聞きました。子どもの様子で気になることがあれば、次の日に繰り返さず、その日のうちに声かけや電話・家庭訪問をすることが大切です。その時に子どもや保護者から本当の思いが聴けるようになるために、普段からの関係づくりが欠かせません。常に子どもの言葉に耳を傾け、「この先生は自分の話をしっかり聴いてくれる先生だ。」という信頼を築いておくことが大切だと思います。(中学校教員)
- 教育相談をするうえで大切にしていることは、「子どもが話しやすい距離感を保つこと」「子どもの話にならずきながら耳を傾けること」「子どもの人格を否定しないこと」です。特にこれらの3点を意識して教育相談を行っています。(中学校教員)

8 学校行事



行事のときこそ、子どもたち一人ひとりをしっかり見取り、認め、励まし、支えて、共に「やりきった感」を味わいたいですね！

こく発！先輩の声8 学校行事では

- 学校行事は、子どもを褒めるチャンスの宝庫です。私はどんな行事でも必ず一人に一つ何かの役割を与えます（一人一役）。そして、こまめに声をかけたり、相談にのったりして褒める種をまきます。子どもが動き出したら（種が育ち出したら）その頑張りをどんどん通信や帰りの会などで認めます（肥料を与える）。最後に行事をやり終えたら、やり遂げたことだけでなく、取り組んできた過程を認め、思い切り褒めます。私の場合は学級通信を使って、保護者にも伝えるようにしています。（小学校教員）
- 行事を通して、私が育みたいと考えることは、子どもたちの学級への帰属意識です。一つのことに向かって個々が努力し、また全員が協力することで、お互いのよさを見つけることが行事の成功と考えています。また、行事の成功のために、プロジェクト委員を組織することもあります。これはリーダー、フォロワー体験でもあります。リーダーになった子どもは自分に与えられた役割を責任を持って果たすために、またフォロワーはリーダーの思いを踏まえつつ建設的な意見を出すことが好ましい集団づくりへとつながると考えるからです。子どもたちがそれまで気付かなかったお互いのよさを見いだすことで、その後の学習に安心して取り組める集団となることを念頭において行事に取り組ませています。（中学校教員）
- 仕掛け役は教師であっても、子どもに「自分たちの手で創り上げた」と思わせるような行事を仕組むことができたなら、子どもにとって、行事は楽しむだけでなく大きな学びの場になります。行事の目的を明確にしながら、子どもに任せることや考えさせる場面をつくるとよいと思います。学校行事は、学級や学年よりはるかに多くの子どもを動かすことになり、やりがいのある仕事で、若い先生方にとっても学びを味わえる取組だと思っています。（中学校教員）
- 子どもたちにとって、体育祭や文化祭などの行事は、とても楽しい行事の一つ。クラスみんなで取り組む中で、友だちのよさがわかったり、自分の意外な一面を見つけたりして、一步成長する大きなチャンスです。また、それまでの日常の取り組み方や先生と子ども、子ども同士の関係が良好であればあるほど、一人ひとり一生懸命取り組んで、良い思い出にしたいと思うに違いありません。行事に向けてのスローガンを決めたり、円陣を組んだり、クラスでオリジナルブックのようなものを作ってみたりして、他のクラスにない特別感が持てる取り組み方ができるように心がけ、個々が活躍する場を作ってあげたいです。そうすることで、行事を通して学級が育ち、その後の学級集団が変化してきます。（中学校教員）

あとがきにかえて

(先輩教員からのメッセージ)



先生も人としていっぱい悩んで成長するのです！



自分の学級を1年間でどう育てるかという、学級経営の完成形は無いと思います。子どもの成長を見てうれしい気持ちになることもあれば、自分の力不足に悩むこともあります。どんなときでも、まず自分自身が楽しんで、いつも笑顔で子どもと接すれば、たくさんの子どもの笑顔も見られると思います。私は、子どもたちと一緒に笑っているときが一番「教師をやっているよかったなあ」と感じる時間です。(中学校教員)

いろいろな先生の実践を見たりアドバイスを聞いたりする中で、よいと思ったことを積極的に取り入れることが、自分の腕を上げる近道ではないかと思います。学級経営をしていく中で、悩むこと、迷うことも多い教員生活だと思います。しかし、努力したら努力した分、喜びも自分に返ってくるのが教員の魅力の一つだと思います。私たちも今後も子どもが安心して過ごせる学級集団になるように努力することを絶やさずに、日々子どもたちと接していきたいです。

湖国の「学び続ける教員」として、ともに歩んでいきましょう。(中学校教員)

私がかげだと考えていることは、子どもたちが大人になったときに、自分の力で問題を解決したり、人を信じたりしながら、幸せに自分の力で生きていけるかどうか、だと思っています。

だから、世の中には色々な人がいるし、不便なこともたくさんあるということを、中学校で教えていかなければなりません。ということは、保護者も含め、子どもたちが何か行動を起こす時に、失敗しないように、学校や保護者が前もっていろいろなことを準備すべきではないと思います。部活動でも勉強でもそうですが、失敗して修正するから子どもは成長するものだと思います。だから、中学校の間にたくさん失敗し、その度に学んでいくべきだと思います。いかに人に頼らず、自分の力で物事を進めていけるか、ということが子どもの成長につながるポイントだと思っています。

また、子どもに先生が合わせるのではなく、先生の思いを伝え、叱る線引きもしっかり伝えておくことで、遠慮することなく指導していけるとと思っています。

子どもと先生が共に信頼し合える、そんなよい関係を築いていかれることを期待しています。(中学校教員)

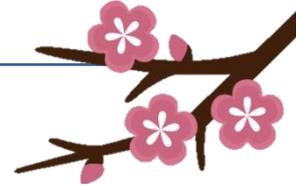
ほとんどの生徒が、心機一転、頑張ろうという気持ちで新学期を迎えます。どんな仲間とそしてどんな担任の先生との出会いがあるのか、興味津々です。そんな中で、クラス替えによりクラスのメンバーが替わったことで不安に思っている子どもがいるかもしれません。でも、担任ならそんな子どもにも「このクラスならやっていけそうだ」という思いをもてるようにしてやりたいです。そのために、私は次の三つを大切にしています。

①まずは担任が元気で明るいこと

②こんなクラスにしたいという思いを、わかりやすく何か工夫をして明言する（例えば掲示物にする クイズで出す 替え歌で歌う くす玉の中にメッセージを入れておく パズルにする など）

③自己紹介を楽しく

最近の若手の担任を見ていると、準備期間にクラスの掲示物ばかりを作っている人がいます。それも大切かもしれませんが、掲示物はクラスがスタートしてから子どもたちとともに作ればよいのです。それより、学級の子もたちが初日をどんなふうにとスタートできるか、子どもたちのことを思い描き、じっくり考えることに時間を費やしてほしいのです。（中学校教員）



学級経営で、めざす形は決して一つではありません。子どもの数、学級の数だけさまざまな形があるものだと思います。ただ、どんな学級であっても大切にしなければならないキーワードがあると思います。それは「安心感」と「共に創る」です。学級は子どもたちにとって、学校生活の基礎となる部分です。そこに安心感がなくては、絶対に生き生きとした学校生活は送れません。学級では子どもたち一人ひとりが認められ、所属感が得られるような学級にしてほしいと思います。そして、そんな学級にするためには、教師が教え込んだり誘導したりするのではなく、子どもたちと共に考え、一緒に創っていくことが大切だと思います。学級は教師が指導や学習をやりやすいように創るものではなく、子どもたちが生き生きと過ごせるように創るものだと思います。そんな学級にできれば自ずと教師自身もその学級のことが好きになり、楽しく学校生活を過ごせると思います。学級経営をする中でさまざまな問題が起こるのは事実だし、避けることは難しいと思います。でも、子どものためと思ってしたことは必ず伝わっていくものです。子どものことを第一に考えられる教師であってほしいし、そんな思いあふれる学級を創ってほしいと思います。（小学校教員）

目次	はじめに	第1章	第2章	第3章	あとがき
----	------	-----	-----	-----	------

「チャンス・チャレンジ・チェンジ」3つのCを意識して、今まで20年間学級経営を行ってきました。

子どもの言動の奥に潜む心の声に耳を傾けながら、しんどさに寄り添うことも大切にしてきました。

「音楽で学級づくり」を自分のモットーに、一人ひとりが大切にされる仲間づくりを目指し、ぶれない・これは譲れないという信念をもつ。また子どもたちを信じることで、たくさん救われてきました。保護者にも、たくさん助けてもらいながらやってきました。何年経ってもまだまだだと反省している日々ですが、子どもで語れる教師であり続けるために、子どもたちと過ごせる「あたりまえの毎日」を、「ありがたい」に変えていくことで、「まだまだ自分の伸び代はある」と信じて日々の学級経営に取り組んでいます。(小学校教員)

参 考 文 献

文部科学省「生徒指導提要」、平成22年(2010年)

文部科学省中央教育審議会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」、平成28年(2016年)

文部科学省国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」、平成27年(2015年)

滋賀県教育委員会「平成28年度 学校教育の指針」、平成28年(2016年)

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター「学級・学校文化を創る特別活動中学校編」、平成26年(2014年)

滋賀県総合教育センター「授業改善 近江プラン」、平成28年(2016年)

滋賀県教育委員会事務局人権教育課平成28年度近畿地区教育研究(修)所連盟人権教育部会「本県における人権教育の推進について」